



スズクグループ環境社会報告書 2014

Sustainability Report

1つでも多くの資源を社会に還元し 胸を張って「イエス」と応えられる企業へ

お客様のご依頼には、必ず「イエス」で応える――。

私は、スズトクホールディングスを、こんな会社になりたいと考えています。

ただし、そう応え続けるのは簡単ではありません。実行する力をともなっていなければ、お客様に満足していただけないからです。

ですから、私たちは、日々、お客様の期待に応えられるよう、新しいチャレンジを続けています。たとえば、今年度は、より多様な廃棄物のリサイクル要請に応えるため、小型家電リサイクル事業を開始。総合リサイクル事業者として、新たな一歩を踏み出しました。

さらに大きな一歩もあります。

スズトクグループのリサイクル技術は、今、海を越えようとしています。

かつて日本が経験したように、急激な経済成長を遂げている新興国の多くが環境問題に直面しています。彼らの問題解決に少しでも貢献できるよう、私たちはタイに合併会社を設立しました。これまで培ったノウハウを惜しみなく生かし、日本企業の一員として地球規模の恩返しをしていきます。

今年度、スズトクグループは約99万トンの資源を社会に還元しましたが、まだまだやれることはたくさんあります。1つでも多くの資源を社会に還元するため、そして、お客様や地球に胸を張って「イエス」と応え続けるため、スズトクグループは、これからも資源リサイクルの可能性を追求してまいります。

スズトクホールディングス株式会社
代表取締役社長 グループCOO

伊藤 清

スズトクグループ3つの願い



「持続可能な社会をつくる」



「社会に信頼され、地域に貢献する」



「社員が誇れる会社になる」

リサイクルの未来を拓くため、
今年度もスズトクグループはさまざまな取り組みを行ないました。
本冊子では、事業活動の成果と、取り組みの具体的な内容について
グループが掲げる「3つの願い」とともに紹介します。

Contents

Top Commitment P2



「持続可能な社会をつくる」

スズトクグループの事業 P4

2013年度 資源リサイクルの全体像 P6

環境マネジメントシステムについて P8

特別対談：鈴木孝雄CEO、枝廣淳子氏
日本の企業にこそ果たせる役割がある… P10



「社会に信頼され、
地域に貢献する」

コンプライアンスの徹底 P12

「クリーンアップ大手町」活動報告 P13

人と社会を「仕事」でつなぐ
障がい者就労支援の取り組み P14

コミュニケーションマップ2014 P16



「社員が誇れる会社になる」

労働安全衛生の確保・推進 P18

365days 現場の声 P20

スズトクグループの「イマ」が分かる
THE SUZUTOKU TIMES P22

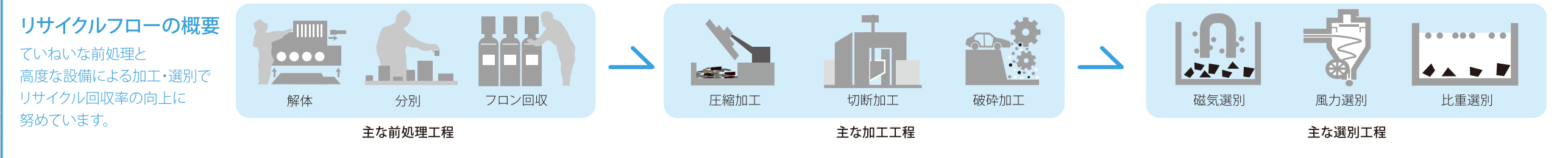
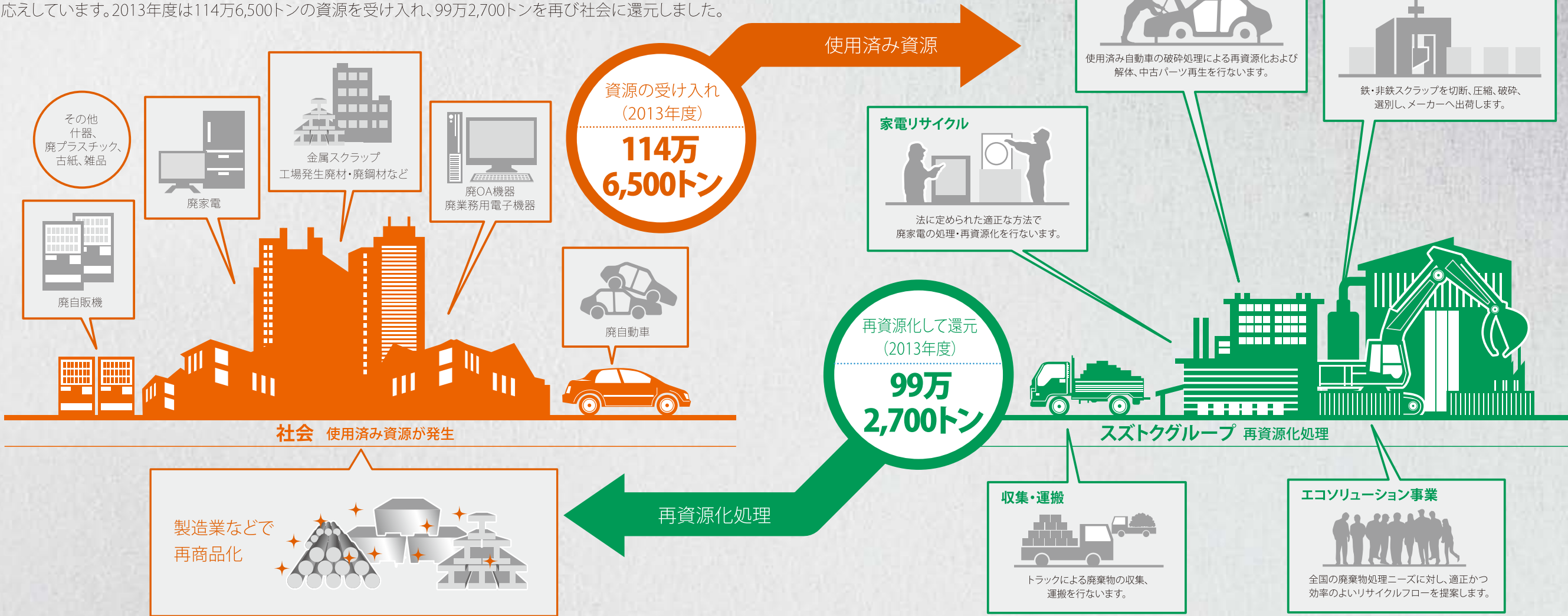
スズトクグループ企業理念、概要・会社紹介 P23

第三者意見 P27



鉄・非鉄金属から家電、自動車、資源ごみまで 多様な品目の再資源化事業を展開しています。

事業活動や日々の生活で発生するごみの削減は、いま多くの企業・自治体が避けて通れない問題です。スズクグループは、8つの事業会社それぞれの強みを生かした廃棄物の再資源化事業を展開。資源を1つでも多く再び社会に還元するため、高度なリサイクルフローを確立し、高まる社会要請とお客様ニーズにお応えしています。2013年度は114万6,500トンの資源を受け入れ、99万2,700トンを再び社会に還元しました。

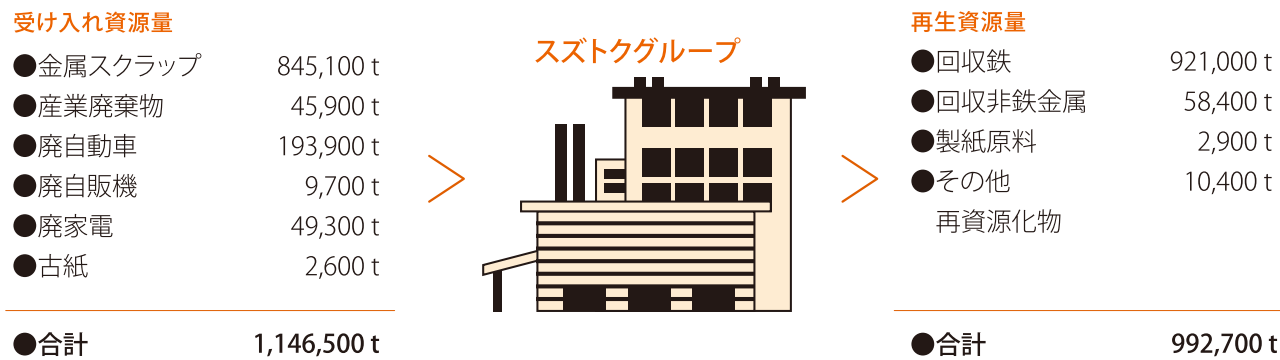




2013年度 資源リサイクルの全体像

「使用済み資源を再び使える状態にして社会に還元する」という使命の下、スズクグループが今年度行なった事業活動の成果です。リサイクル処理においては、機器の稼働に必要なエネルギーや発生廃棄物(残渣)も可能な限り削減。環境負荷を低減しています。

受け入れ資源量および再生資源量



再資源化物の還元率

2013年度の当グループの資源受け入れ、再生量は上記のとおり。受け入れ品目の内訳では、金属スクラップ、廃自動車、廃家電、古紙が昨年度比で増加。産業廃棄物、廃自販機は微減しましたが、トータルでは78,300tの増加となりました。また再生資源量も全品目において昨年度より増えており、全体では76,900tの増加。再資源化物の還元率は、2012年度と同じ約86%となりました。

※還元率(%)は「再生資源量÷(再生資源量+発生廃棄量)×100」で算出

事業活動にともなう発生物

事業活動の環境負荷を低減するには、廃棄物の処理工程で発生する「どうしてもリサイクル不可能なもの(残渣)」をできる限り減らすことが重要です。グループは、処理できない品物については外部の事業者へ処理を委託。その後、委託先事業者は、焼却、埋立、破壊(フロン)といった方法で、それぞれの品物を適正に処理しています。

今年度の発生廃棄物量は、フロンを含めて合計166,280t。受け入れ資源量が前年度より大きく増えたことで、発生廃棄物量も21,190tの増加となりました。

発生廃棄物量と処理方法	
処理方法	量
焼 却	114,300 t
埋 立	51,700 t
破壊(フロン)	280 t
合 計	166,280 t

2013年度の環境投資

今年度の環境投資額は12億8,800万円です。公害防止、環境保全、リサイクルサービスの高度化のため、グループ各社が各種設備を導入・更新しました。

たとえば、イツモ(株)は廃棄物運搬用のトレーラー19台を入れ替え。これまでは、荷台部分のタイヤが2つの「2軸車両」を使用してきましたが、新たに「3軸車両」にしたことで、最大積載量が約30%増加しました。これにより、輸送効率化、および過積載の防止につなげています。

そのほか、グループ各社でもバランスクレーンや選別設備などの入れ替え・新規導入を実施しています*。

*詳細はP22で紹介しています。

2013年度環境投資		
区 分	金 額 (単位:百万円)	主な投資内容
公害防止	55	防音壁、集塵機
環境保全	25	フロン回収設備、kWhメーター、植栽
資源循環	1,208	スクラップシャー、シュレッダー設備
合 計	1,288	

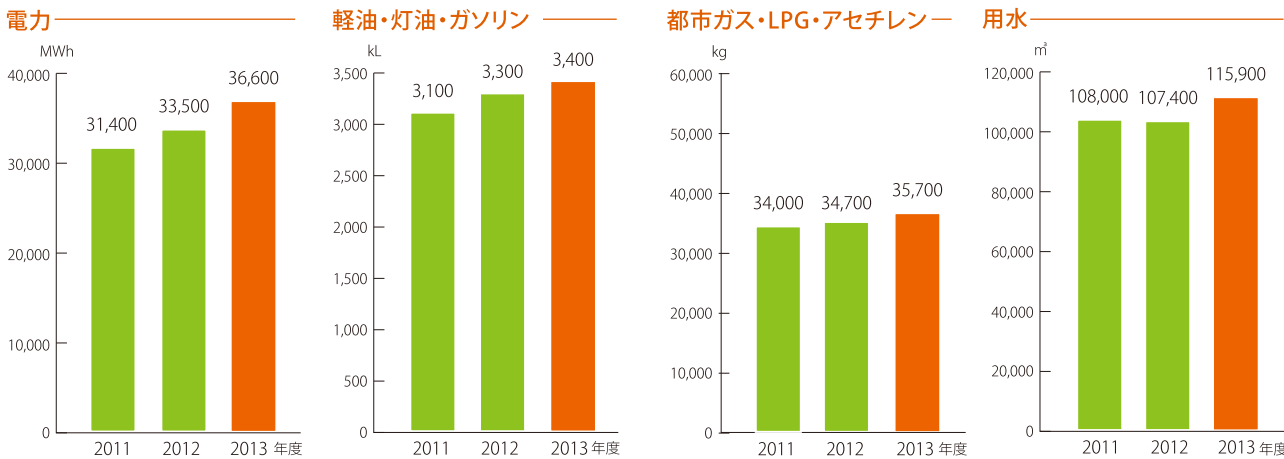
※各社直近の決算数値から集計

事業活動に使用したエネルギー

グループ各工場のリサイクル処理は、設備の安定稼働なくして実現できません。そのための燃料やエネルギーをできるだけ効率的に使用し、限りある資源を有効に活用することも、グループに課せられたミッションです。今年度の使用量は表のとおり。リサイクル処理量の増加にともない、全項目で使用量が増加した結果となりました。

事業所のエネルギー等使用量		省エネ法への対応	
種 類	量	特定事業者	エネルギー使用量 (2013年度、原油換算)
電 力	36,600 MWh	鈴 徳	2,618 kL
軽油・灯油・ガソリン	3,400 kL	中田屋	3,083 kL
都市ガス・LPG・アセチレン	35,700 kg	フェニックスメタル	2,801 kL
用水	115,900 m ³		

省エネ法では、企業全体のエネルギー使用量が1,500kL/年以上の企業を「特定事業者」に指定。エネルギー使用の把握と管理を義務付けています。グループのうち、特定事業者に該当するのは上記3社です。



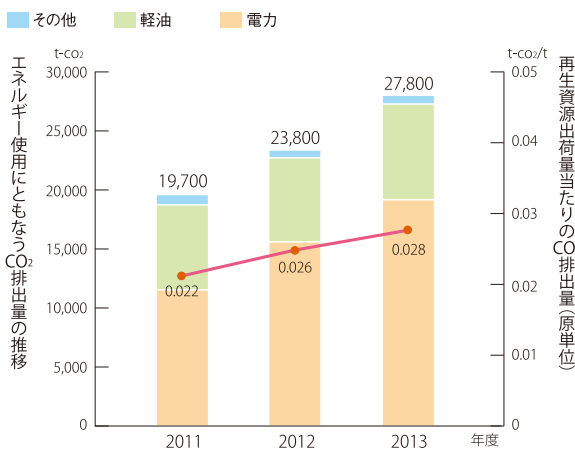
事業活動で排出されるCO₂

機器を稼働した際や、廃棄物運搬時のトラックなどからは、二酸化炭素(CO₂)が発生しています。このCO₂をできるだけ削減することも、事業活動においては重要です。

今年度のCO₂排出量は、昨年度より増えて27,800t-CO₂となりました。

CO₂排出量

エネルギー使用にともなうCO ₂ 排出量	27,800 t-CO ₂
再生資源出荷量当たりのCO ₂ 排出量	0.028 t-CO ₂ /t



※t-CO₂/t換算係数の変更について 2013年度より、電力のt-CO₂/t換算係数が0.000464から0.000525に変更になっています(2013年12月の環境省の報道発表資料に基づく)。



環境マネジメントシステム(EMS)について

Environmental Management System

持続可能な社会をつくる

資源リサイクル業は、それ自体が環境保全につながる特性を持ちます。そのため、グループのEMS運用においては、「本業の高度化」を重要項目に設定。すでにグループ全社がISO14001に適合したEMSを整えています、一層の高度化を目指しています。(EMS:Environmental Management System)

スズクグループの環境方針

基本理念

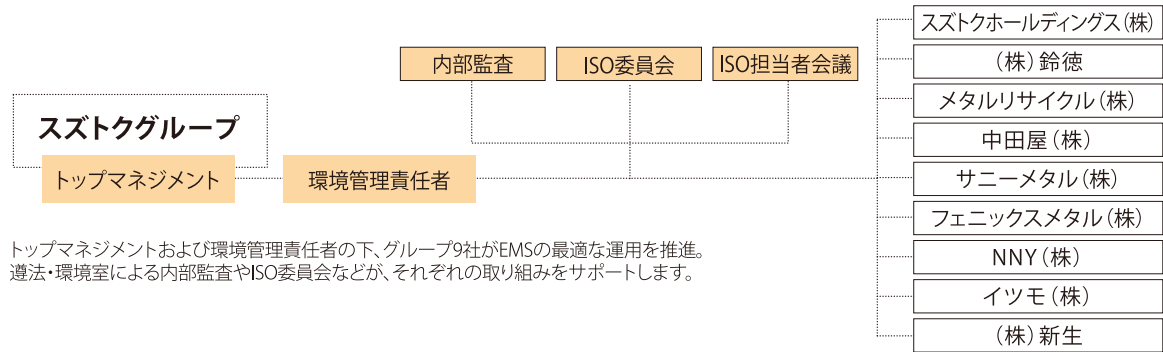
地球温暖化を始めとする地球環境問題は深刻さを増し、それらへの対応は人類共通の重要課題となっている。このような状況に対し、スズクグループはリサイクル事業と廃棄物処理事業の推進により循環型社会の形成に貢献することが総合リサイクル業としての社会的使命であると認識し、地球環境及び地域環境の保全と環境負荷の低減に向けて積極的な施策を推進する。

基本方針

- 1 ISO14001に適合する環境マネジメントシステムを運用し、継続的に改善するとともに、汚染の予防に努める。
2 当グループの業務に関する法的要求事項及び当グループが同意するその他の要求事項を順守する。
3 業務を通じて一人ひとりが知恵を出し合い、以下に取り組む。
1資源回収の充実とリサイクルの高度化
2地域社会への貢献
3省資源・省エネルギー・廃棄物の削減
4安定した資源リサイクル

2013年10月1日
スズクホールディングス株式会社
代表取締役社長 グループCOO 伊藤清

EMS運用のための組織体制



トップマネジメントおよび環境管理責任者の下、グループ9社がEMSの最適な運用を推進。遵法・環境室による内部監査やISO委員会などが、それぞれの取り組みをサポートします。

Column 各拠点の取り組み

3年連続で夏期の節電目標を達成

スズクグループのEMSの下、当事業所は「7月～9月の電力使用量を2010年度比で20%削減」という目標を設定し達成しました。そのための主な取り組みとしては、最も電力使用量の多い設備であるシュレッダーの稼働効率化を徹底。処理をなるべくまとめることで、毎日2時間の停止をルール化しました。また事務所でも、こまめな消灯や、エアコンを28度に設

定するといった取り組みを実施。日々の積み重ねで達成につなげています。節電は、電力会社からの要請も受ける重要な取り組み。当事業所はこの目標を3年連続で設定・達成してきましたが、今後も引き続き取り組んでいきたいですね。



サニーメタル(株) 大阪事業所 橘 千加

グループ全体のさまざまな取り組み

例年同様、近年もEMSの運用状況に対する内部監査を実施しました。結果は4段階で示され、良好37(42)件、観察32(28)件、修正19(23)件、是正0(0)件でした(カッコ内は前年度)。これにより、2012年度から遵法・環境室担当者によるエリア担当制に移行したグループ全体のEMSの運用体制を、より徹底し定着させることができています。

EMS内部監査



遵法・環境室が全23の事業所および委員会を対象に実施。EMSの徹底を促します。

フロン回収



グループ全拠点で、法律で定められたフロンの適正回収を実施しています。

各拠点の目標設定と達成率(2013年度)

今年度もグループ各拠点が目標を設定し、環境保全活動に取り組みました。結果は、全目標70件のうち、94.3%に当たる66件が達成。市場環境の変化などの影響もあり、4件が未達となりました。

環境方針	省エネ・省資源・廃棄物削減	資源回収の充実とリサイクルの高度化	安定した資源リサイクル(危機管理)	法令順守・汚染の予防	地域社会への貢献	継続的改善
個々の事業所で掲げた主な目標	一般廃棄物発生を2012年度比で15%削減	非鉄売上数量を2012年度以上		フロン漏洩ゼロ	地域活動への参加2件以上および1回／週の周辺清掃実施	個人目標設定 前年度目標に加え1人1件以上／年
	7月～9月の電力使用量を2010年度比で20%削減	有価物回収量を2012年度以上	近隣住民からの騒音・振動に関するクレームゼロ	重電機器受入手順の遵守	企業団地内の不法投棄撲滅	作業活動円滑化のため2カ月に1回の整備実施
	ダストからの非鉄回収量を2012年度以上	小型家電リサイクルの仕組みの構築	重大事故ゼロ	放射線汚染物受入禁止	地域活動4回以上／年	輸送効率向上のためのセミトレーラー導入
	デマンド導入による契約電力値の選定／節電	受入木くずおよび回収木くずを2012年度以上チップ化し有価売却する	災害ゼロ	水質検査実施1回／月	工場周辺の毎週清掃	職場環境業務改善(問題点・改善提案:1人1件／年)
	燃費向上のための低排出ガス車の導入	ミックスメタル回収増加のための非鉄選別機導入	飛散落下ゼロ	岩壁および海上への油流出ゼロ	トラック駐車場の整理・整頓および清掃	業務改善または環境改善の個人目標設定1人2件／年
	ほか全5件	ほか全32件	全4件	ほか全8件	ほか全10件	ほか全11件

達成件数	達成件数	達成件数	達成件数	達成件数	達成件数	
	5件	28件	4件	8件	10件	11件
	5件	32件	4件	8件	10件	11件
	達成率 100%	達成率 87.5%	達成率 100%	達成率 100%	達成率 100%	達成率 100%

総合評価

今年度は9社23場所で70件の目標を設定し、66件(94.3%)が目標を達成しました。目標未達成となった4件は「資源回収の充実とリサイクルの高度化」に関するもので、いずれも受入物の構成変化や市場の状況変化に影響を受けたことが原因です。

具体的な目標設定の内容においては、小型家電リサイクルへの取り組みを進める事業所が多くありました。同時に、70件

中32件(45.7%)が「資源回収の充実とリサイクルの高度化」に関する目標となり、前年度の77件中23件(29.8%)に比べて増加傾向にあります。これは、より業務に直結した目標を各場所が設定したことによるもののため、好ましい傾向として継続すべきと考えています。

今後も業務に直結した目標設定・達成手段を推進し、環境保全活動を展開していきます。

持続可能な社会をつくる

「共生」の思想が息づく国 日本の企業にこそ果たせる役割がある



スズクホールディングス株式会社
代表取締役会長 グループCEO

鈴木 孝雄

1968年 株式会社鈴木徳五郎商店（現・株式会社 鈴徳）入社。85年 代表取締役社長、2009年 スズクホールディングス株式会社 グループCEOなどを経て、2013年より現職。

特別 対談

環境ジャーナリスト・翻訳家

枝廣 淳子氏

東京大学大学院教育心理学専攻修士課程修了、本当の幸せを経済と社会の関わりで学ぶ「幸せ経済社会研究所」を主宰。環境問題に関する講演・執筆・翻訳などの活動を行なうかわら、地球環境の現状や世界・日本各地の新しい動き、環境問題に関する考え方や知見を、環境メールニュースで広く提供している。アル・ゴア著『不都合な真実』（ランダムハウス講談社）の翻訳者としても知られる。著訳書多数。



「ブータンの国王が示した 日本に対する尊敬と期待」

鈴木：持続可能な社会を実現するには、もはや日本のことだけを考えればよいという状況ではありません。枝廣さんは、ブータンに関連するお仕事をされているそうですね。私も先日、機会がありブータンを訪問しました。ブータンは、GNP（国民総生産：Gross National Product）ではなく、GNH（国民総幸福量：Gross National Happiness）に基づく政治を提唱していることで有名です。大量消費をベースとする経済発展が必ずしも幸せなわけではないという考え方ですから、国土には豊かな自然が多く残っています。

しかし、近年、ブータンにも近代化の波が押し寄せ、ごみ問題が浮上しています。突然、急激な変化に襲われたため、問題意識もシステムも育っておらず、山間に捨てられたごみが有毒ガスや水を垂れ流していました。

枝廣：私も同じ印象を持っています。私はブータン政府の委員会メンバーとして、GNHを測るための指標づくりについても教えてもらいましたが、指標となる質問項目が600以上あるにもかかわらず、そのなかに廃棄物処理は取り上げられていません。これまで、特にそんなことを考える必要がなかったからです。

鈴木：多くの新興国が同じような状況におちいっていますが、私は、日本の企業こそ、彼らを支援できる最良のパートナーなのではないかと考えています。日本もまた、高度経済成長期に同じ問題に直面し、それを克服してきた経験を持っているからです。

しかも、日本人の心の底には「共生」の思想が息づいて

いる。森羅万象に神が宿ると考え、和を以て貴しとなすことができる——。災害が起きても秩序を保ち、毅然と立ち向かう。実際、東日本大震災後の日本人の姿を世界中が賞賛しました。前述のブータンの国王も日本の国会で演説を行ない、日本人の強さ、ためらうことなく世界中の人びとと成功を分かちあえる資質、そして、日本が世界にもたらすことのできる恩恵について触れ、これからもリーダーであり続けて欲しいと期待を述べています。

「情報発信力を磨き 世界への貢献を意識すべき」

枝廣：技術的にも日本は世界をリードできるのではないのでしょうか。私は、スズクグループのようなリサイクル企業を数多く訪問しましたが、どこも本当に優れた技術力を持つ



持続可能な社会を実現すること——。

現在、日本だけでなく、世界がこの問題と向き合っている。そのなかで、日本企業、ひいてはスズクグループは、どのような役割を果たせるのか。グローバルな活動を展開している環境ジャーナリストの枝廣淳子氏をゲストにお招きし、鈴木孝雄CEOがこのテーマと向き合った。

ている。ただ一方で、「情報を発信する力」が弱いのではないかと感じています。私は10年以上前から、184カ国の政府や企業、NGOなどに向けて、日本の優れた取り組みを英語で発信する活動が続けていますが、日本の環境技術やシステムは、まだまだ世界には知られていません。

たとえば、最近、ヨーロッパでは「循環型社会」の実現が大きなテーマだと言われ始めていますが、日本は何十年も前からリサイクル法や仕組みを整備して、それを実現してきた。すでに世界を何歩もリードしているのです。ところが、ヨーロッパの人たちは、そのことをまったく知らない。もっと日本のことを知ってもらわなければ、技術を活用してもらうこともできません。

鈴木：それは大きな問題ですね。ただ、企業の意識そのものは、以前よりも高くなっているのではないのでしょうか。経



団連の会議などで「スズクグループも共に海外に進出し、現地での廃棄物処理を手伝います」と言うと、多くの企業が関心を示します。利益を上げるためだけに進出するのではなく、現地の国民のパートナーとして共生し、受け入れてくれた恩返しをしていく。スズクグループもタイに合弁会社を設立し、そのための準備を着々と進めています。

「新しい価値観を許容できる 社会をつくるために」

鈴木：海外の話が続きましたが、日本国内にも、まだ課題はあります。スズクグループも、鉄、プラスチック、紙だけでなく、人の暮らしが生み出すあらゆる資源を再資源化できるよう、リサイクルシステムの完成度をさらに高めていきます。

枝廣：現在、私は、日本では「三脱」の動きが広がっていると考えています。「三脱」とは「暮らしの脱・所有化」「幸せの脱・物質化」「人生の脱・貨幣化」です。モノを所有せずに他人とシェアする動きが広がり、人とのつながりや自然との触れ合いなど「モノではないもの」に幸せを求める人が増えています。これまでとは価値観の異なる、こうした多様な生き方が許容される社会を実現するうえでも、御社のような総合リサイクル企業の力は不可欠です。

鈴木：幸せの定義が変わってきているのですね。そうした“次の時代の豊かさ”を支えるためにも、スズクグループは持続可能な高度循環型社会の実現に貢献していきます。

枝廣：日本、そして世界のためにも、ぜひよろしく願います。

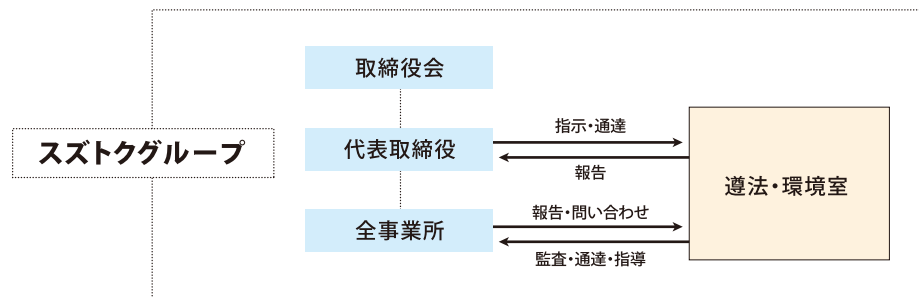
社会に信頼される企業であり続けるためには「コンプライアンス（法令遵守）」の考え方が欠かせません。スズクグループでは専門部署である遵法・環境室を設置し、年次の内部監査や社員の法知識教育を実施。これにより、グループ全社の適正な事業活動を担保しています。

スズクグループの遵法を司る「遵法・環境室」

グループ全体のコンプライアンスを管轄する部門が、スズクホールディングス（株）に設置された遵法・環境室です。この部門では、法に照らして適正な業務を徹底するための施策を実施。具体的には、各事業所を訪れてヤード内の品物の管理状況や、書類の管理体制などをチェックする「遵法監査」、グループ内からの法律に関する問い合わせ対応、社員向けの法知識教育などを行なっています。

また遵法・環境室は、廃棄物処理関連の書類や、各事業所が保有する許可の期限などを一元的に管理する役目も担っています。これにより、万一の書類不備なども防ぐことができ、各事業所の業務の適法性をより確かなものにしていきます。

コンプライアンス確保のための体制



遵法・環境室は、全グループのコンプライアンスを管理する独立した部門として設置。監査の実施のほか、グループ各拠点からの法律に関する問い合わせにも対応しています。

2013年度の遵法・環境室の取り組み

「遵法監査」の結果について

今年度の遵法監査の指摘項目数は、全拠点合計で56件。昨年度の70件と比べて14件の減少となりました。また、指摘項目はその後の改善が求められますが、そのための取り組みの進捗状況を確認する「フォローアップ」では、指摘56件すべての改善完了が確認されました。

また、遵法・環境室は、グループが排出事業者責任を果たすために必要な、廃棄物の処理委託先の訪問監査も実施しています。今年度は、昨年度より23社の増加となる55社を訪問（新規委託先を含む）。「マニフェスト管理の状況」「帳票の保管状況」といった項目に基づく厳正な監査を行ないました。

その他の活動について

ほかにも、遵法・環境室はさまざまなコンプライアンス確保のための施策を展開しています。

例えば今年度は、各拠点の担当者が、自拠点のコンプライアンス施策の実施度合いを自己採点する「点数評価制度」を導入しました。88の評価項目に1～4点で回答することで、改善すべき取り組みのポイントなどを可視化。改善につなげやすくしています。

また、社員の法知識教育も重要な役目の一つです。そのための仕組みとして、当グループではeラーニングシステムを整備。社員の自発的な学習を促すとともに、法律に関する問い合わせ対応などは遵法・環境室も積極的にこなすことで、社員の法知識習得レベルの標準化につなげています。

遵法監査



現場の処理設備などをチェックするほか、重要書類の管理体制なども確認しています。監査後は、指摘箇所の改善施策もフォロー。これにより、グループ全拠点の適正処理をより確実なものとしています。

マニフェスト管理システム



グループでは、独自開発のシステムを活用し、産業廃棄物の処理工程を管理する伝票「マニフェスト」を運用しています。これにより、品物の種類や数量などを効率よく、適切に管理しています。

TOPICS
2014

「クリーンアップ大手町」活動報告

身近なところから
はじめよう！



「車道脇に多いね」

「ここ、たくさん落ちているぞ」――。

夏の厳しい日差しが照りつける大手町のオフィス街に、スズクグループ社員の声が響きます。2014年6月、当グループは東京サンケイビル本社周辺の環境美化活動を行ないました。

スズクホールディングス本社から東京駅周辺、皇居前の一角は、街路樹やベンチなどの整備が進んだ真新しい街。一見、とても「清潔」な街並みです。しかし、いったん歩道脇の植え込みや、車道の側溝に目を向けると、心なく捨てられたゴミがそこかしこに落ちています。

なかでも目立つのは、タバコの吸い殻。一昔前に比べればかなり減ってはいますが、「ポイ捨て」はまだまだなくなっていないようです。参加した社員は火ばさみでそれらを1つひとつゴミ袋に収めていきました。

また、植え込みの中にたくさん隠れていたのが、新聞の切れ端やコーヒーの空き缶といったゴミです。「普段、

何げなく歩いているだけでは、なかなか気づきませんね…」と社員たちは草や枝をかき分けて、それらのゴミを拾い集めました。

最終的には、用意した10枚のゴミ袋に収まらないほどのゴミを収集。「暑かったけど、すがすがしい気持ちです」「目的はお世話になっている地域への恩返しですが、最後には“宝探し”をしているような気持ちになってしまいました」と全員で気持ちのいい汗を流しました。

事業活動を行なううえで、「地域社会との共生」は欠かせない視点の1つ。こうした清掃活動は、グループ他拠点も継続的に行なっています。今後もさまざまな活動を通じて、働きやすく住みよい社会づくりに貢献していきます。



約2時間で、大型ゴミ袋3つ相当のゴミを回収。一見きれいな見える街並みにも、たくさんのゴミが隠れていることが分かりました。



「あの公園にありそうだ」「私はこんなに拾ったよ」など、参加者が互いに話し合いながらゴミを集めていました。

▶▶そのほか、グループ各拠点の地域貢献活動はP16-17でご紹介しています。

人と社会を「仕事」でつなぐ ～サニーメタル 障がい者就労支援の取り組み～

サニーメタル(株)は、CSR活動の一環として、知的障がい者の就労支援に取り組んでいる。廃家電の手解体や資源ごみの分別作業などを通じて、彼らの社会参加の足掛かりにしているのである。どのように、より実践的な経験を積んでもらうか——。同社は、全社を挙げてこのテーマと向き合っている。



実のある就労支援を実現するため 主力事業の一端を任せる

スズクグループ唯一の関西拠点、サニーメタル。同社は2012年4月より、知的障がいのある人を現場に受け入れ、就労支援を行なっている。スクラップやリサイクル処理の一部を彼らに任せ、その経験を社会参加のきっかけとしてもらうためだ。

「障がいのある方の就職は非常に厳しい状況にあります。ただし、実際の仕事経験を積むことで社会参加を果た



家電手解体工程には2014年6月現在、10名が配備されており、主に空気清浄機の解体作業を行なっている。

している例も多い。そこで、当社も彼らに経験を積むための場所を提供することにしたのです」と同社の大島延夫は話す。

バスや電車に乗って、決められた時間に職場に行く。ルールを守り、仲間とコミュニケーションを取りながら仕事を行なう。一見当たり前のことも、彼らにとっては高いハードルとなる。これらをクリアしてもらうために、サニーメタルはさまざまなことを検討した。

まず、担当してもらう仕事は、同社の主力事業の一部としている。具体的には、有価物を回収するための廃家電の手解体、そして、缶、ビン、ペットボトルなど、資源ごみの選別業務である。より実践的な経験を積んでもらうには、毎日、発生する仕事であることが重要と考えたからだ。

「仕事があるときにだけ来てもらうような支援では、ただの『イベント』になってしまう。より実のある社会参加支援策を目指すには、ほかの社員と同じように、毎日、通勤し、任された仕事を行なうという経験が不可欠です」と大島は言う。

さらに、長く支援を続けるためには、彼らに一人前の戦



サニーメタル株式会社 代表取締役社長
大島 延夫

力となってもらい、事業に貢献してもらうことが欠かせない。「ただの『お手伝い』で終わらせず、しっかりと成長を実感してもらうこと。そして、成長した彼らと当社が互いに必要としあう関係を築くことが、よりよい支援につながると考えています」(大島)。



経験を積むごとに、電動ドライバーなどの工具の使い方も上達。スムーズな手付きで作業を行なっていく人も多い。

事業所全体で協力して より働きやすい環境へと改善

仕事の進め方にも、さまざまな配慮をしている。働き出す初期段階で団体行動を基本としたのも、その1つだ。

出社後、作業着に着替え、ヘルメットをかぶって現場に行く。最初は、このルーチンを覚えてもらうのも大変だったという。そこで同社は、社員がジョブトレーナーとして先導する団体行動方式を取り入れた。これにより、彼らの職場への適応スピード、仕事を覚える効率が格段に上がった。

「分からないことはトレーナーに聞けばいいし、何より、ほかの仲間がいるという安心感があるのかもしれない。周りの人のやり方を見たり、コミュニケーションをとったりしながら、新たな環境に適応していける体制を整えました」と大島は話す。

とはいえ、彼らの個性はさまざま。障がいの内容や度合いも全員が同じではない。たとえば、時間の経過や自分の体調の変化に気づかず、作業に没頭してしまう人もいる。また、少しの変化も気になってしまう人は、更衣室、現場、トイレなどへ移動するときにも、常に同じルートを通ることによって落ち着きを得ようとする。トレーナーは、こうした個性を見抜き、積極的に休憩を勧めたり、通路に極力ものを置かないよう、ほかの社員に協力を求めるなど、細心の注意を払っている。

「現場は安全が第一ですが、トレーナーが彼らの個性を把握できれば、より多様な作業にチャレンジしてもらうこともできるでしょう。経験する作業の幅が広がれば、支援の質も上がります」と大島は話す。

事務所に響く挨拶の声と 仲間の成長に喜びを感じる日々

就労支援を続けてきたことは、同社にも思いがけない変化をもたらした。サニーメタルの事務所には、毎日、「おはようございます」といった元気な挨拶の声が響いている。この習慣は障がいのある彼らがもたらしてくれたものだという。「ともすれば、おざなりにしてしまいがちな挨拶は、声の大きさと体調や心の変化に気づくことができる大切なコミュニケーション方法。この習慣は大事にしたいですね」(大島)。

最初は10名程度から始まった就労支援だが、これまで同社は約40名の社会参加を支援してきた。十分な経験を積んだあと、彼らはサニーメタルを“卒業”していくことになるが、NPOを通じて支援に参加しているため、卒業後の彼らの動向は基本的には知ることができない。別の企業でさらに経験を積み場合もあれば、晴れて就職を果たしている場合もあるだろう。

実際、開始当初から通い続けている人のなかには一見、同社の社員と見分けがつかないほど、スムーズに作業を進められるようになった人もいる。「最初は送迎がないと出勤できなかった方が一人で出勤できるようになったり、電動工具の使い方もおぼつかなかった方が、今では一人前の働きをしてくれるようになるなど、多くの成長を目の当たりにしてきました。一緒に働く仲間としてとても感慨深いものがあります」と大島は目を細める。

いかに社会に貢献していくか——。CEOである鈴木孝雄を筆頭に、現在、スズクグループは、企業の新たな価値を確立したいと考えている。サニーメタルの取り組みは、社会貢献という側面における、グループの新たな可能性を示している。



資源ごみの選別は、同社が大阪市から受託しているもの。障がいのある方は、コンベアを流れてくるビンや、色ごとにボックスに投げ込んでいく。



資源ごみの選別回収エリア

スズクグループ コミュニケーションマップ

スズクグループは、企業理念の1つに「社会に対する責任」を掲げ、地域社会との共生を大切にしています。今年度も、グループ各拠点がさまざまな社会貢献活動を実施。地域の方々とのコミュニケーションの充実に取り組みました。

A リサイクルイベントで小型家電を回収

グループ各拠点が、所属する自治体の開催するリサイクルイベントに参加し、市民からの小型家電回収に協力しました。これは「小型家電リサイクル法」の施行を受け、地域住民へのPRを目的として実施されたものです。

フェニックスメタル(株)は、昨年度に続いて、市原市のリサイクルフェアに出展。また、NNY(株)では、栃木県大田原市、矢板市、那須塩原市、日光市など、複数地域のイベントに参加しました。(株)鈴徳 児玉営業所でも、東京都柏江市、群馬県高崎市など、複数の自治体でのリサイクルイベントに参加し、市民へのPR活動を行ないました。



B 工場周辺の清掃活動を実施

事業所周辺の清掃は、地域貢献の基本的な取り組みとして、グループ各社で継続して行なっています。

(株)新生では、毎週月曜日の始業前に、全従業員で清掃活動を実施。工場周辺の道路などを清掃し、地域環境の美化に努めています。

フェニックスメタル(株)でも、工場周辺の清掃活動を長年継続しており、毎月月初には、全従業員を4班に分けての大規模清掃を行なっています。



C アルミ缶回収優秀校の推薦・表彰

アルミ資源の回収・有効利用を推進するアルミ缶リサイクル協会。同協会では毎年、資源回収活動に貢献した小中学校の表彰を行っており、今年度は全国で67校を優秀校として表彰。そのうちの1校に、中田屋(株)富士非鉄工場が推薦した富士市立岳陽中学校が選出されました。

同校が選定対象期間中に回収したアルミ缶の総量は約2.5トン。2013年11月には、富士非鉄工場長が岳陽中学校を訪れ、表彰状と記念品を贈呈しました。

D 地域団体と協力した環境美化活動

地域団体と連携した環境美化活動に、今年度も継続して取り組みました。

中田屋(株)富士工場では、「滝川の水辺と遊歩道を育てる会」の活動の一環として、近隣企業と共同で川岸の雑草の刈り取り、および遊歩道にチューリップを植える活動を実施。同社 加須工場でも、毎年恒例となった「会の川清掃活動」に参加しました。また、同社 伊勢崎工場も、昨年に引き続き「波志江沼環境ふれあい公園」の清掃活動に参加し、近隣地域の美化に努めました。

E 花壇を設置し地域の緑化を推進

緑のある街づくりに貢献するため、グループ各社は拠点周辺の緑化活動も行なっています。

中田屋(株)富士工場では、事業所周辺にプランターを設置しているほか、線路の枕木を利用した手作りの花壇も造成。大規模な植え替えを年4回程度行なうことで、景観維持に努めています。

(株)鈴徳 船橋営業所でも、工場入り口に新たに花壇を造成しました。これは、ご来社いただくお客様に少しでも心安らぐ時間を過ごしていただこうと考えたもの。グループでは今後も、地域の緑化活動を続けていく予定です。

F 自治体へ空気清浄機を寄贈

自治体への家電製品寄贈も、グループ各社で継続して行なっています。今年度はNNY(株)が、栃木県矢板市へ、空気清浄機2台を寄贈しました。これらの家電製品は、市内の福祉施設、教育機関などに設置され、市民の快適な生活に役立てられています。



G 工場見学、体験学習の受け入れ

グループ各社は、事業内容への理解を深めてもらうため、自治体、企業、団体などの工場見学を積極的に受け入れています。

今年度は、NNY(株)が、栃木県唯一の小型家電リサイクル法の認定処理工場として、栃木県清掃事業連絡協議会による大規模視察の受け入れを実施。家電リサイクルについて、理解を深める機会としてもらいました。

さらに同工場は、地域の中学校・特別支援学校の職場体験実習にも協力し、生徒がリサイクルについて学ぶ場として活用していただきました。



H 地域消防局の実習訓練に協力

柏市防火安全協会の会員であるメタルリサイクル(株)千葉営業所では、柏市消防局が実施するレスキュー訓練に協力しました。

当日は、消防局の要望に応じ、解体作業前のハイブリッド車、ワンボックス車、軽自動車の3車種を営業所敷地内に設置。事故によって自動車内へ閉じ込められた市民救助を想定した訓練に活用してもらいました。この一連の協力活動に対し、柏市消防局から感謝状をいただいています。



I 駐車場スペースの草刈りを実施

グループの運搬業務を支えるイトモ(株)では、トラックの駐車スペースの草刈りを実施しました。これは、近隣住民に快適に生活してもらうことはもちろん、生い茂った草むらがゴミの不法投棄などを誘発することを防ぐためでもあります。同社は、広い駐車スペースの草刈りを3日間かけて実施。快適な環境維持のため、今後も定期的な実施を予定しています。



グループ各拠点所在地

※各社のより詳細な情報はP24-26に掲載しています。



労働安全衛生の確保・推進

Occupational Safety and Health

社員が誇れる会社になる

事業活動における最優先事項、それが「安全」です。

廃棄物の適正処理は、安全・安心な労働環境なしに継続することはできません。

当グループではそのための管理体制を整備。同時に、各拠点も個別の事故防止策などを徹底しています。

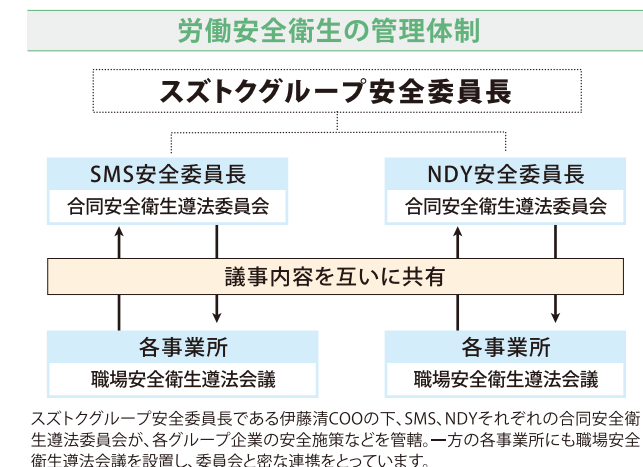
労働安全衛生体制の概要

資源リサイクル業で扱われる品物は、技術の進化や社会要請にともなって日々刻々と変化します。つまりこれは、入荷する品物ごとに、処理作業時の注意点も変わるということ。そのため、工場の現場では、想定されるリスクを常に正しく予期しながら作業を進める必要があります。

こうした状況の下、適切な労働安全衛生体制を管理するため、グループではスズクグループ安全委員長をトップとした管理体制を構築しています。SMS、NDY※それぞれに設置した合同安全衛生遵法委員会は、定期的な現場のパトロールなどを実施。各拠点の日常業務の中でのヒヤリ・ハット事例の共有や、安全衛生向上に向けたインフラ整備などを通じて、実態を踏まえた安全管理施策を徹底しています。

※SMS…鈴徳、メタルリサイクル、新生からなるグループ
※NDY…中田屋、サニーメタル、フェニックスメタル、NNY、イツモからなるグループ

SMS合同安全衛生遵法委員会



NDY合同安全衛生遵法委員会



今年度の具体的な取り組み

今期、当グループは全社の重点目標を「防火防災対策」とし、各拠点が取り組みを実施しました。

たとえばメタルリサイクル(株)メタル事業部は救急訓練を実施。消防署職員のアドバイスの下、社員がAEDの使用法や心臓マッサージなどの方法を学びました。また同事業所では、水消火器を使った消火訓練や、バランスクレーンに取り付けた放水銃の稼働テストも実施。万一の災害への備えとしています。

そのほかSMS、NDYグループそれぞれの安全維持活動も継続的に実施しています。

SMSグループは「安全パトロール」を今期も実施。SMS安全委員長が、月1回のペースで全現場を視察し、処理前廃棄物の整理整頓状況、機器のメンテナンス状況などをチェック項目に基づいて確認しました。

またNDYグループは、「ヘルメット着用時はあごひもを締める」「安全靴を着用する」「必要に応じマスクや耳栓を使う」といった安全具などの運用ルールを再確認。さらに、作業現場やお客様向け見学通路などの清掃も強化し、安全・清潔な労働環境の維持につなげています。

救急訓練



初期消火訓練(水消火器、放水銃)



Column 各拠点の取り組み

「ゼロ災」を2005年から継続

中田屋(株)伊勢崎工場では、2014年6月30日時点で人身無事故無災害3349日を達成しました。

そのために当工場では、「基本作業」と「危険予知」の2つを作業時の重点テーマに設定。拠点を挙げた「ゼロ災」継続への取り組みを続けています。

まず基本作業においては、「頭を使って作業する」ということが大切だと考えています。私たちの扱う廃棄物やスクラップは、すべて形状や重さが異なります。そのため、ルーチンワー

クに陥らず、日々入荷してくる品物ごとに最適な扱い方を考えることで、転倒や破損といった事故を未然に防いでいます。

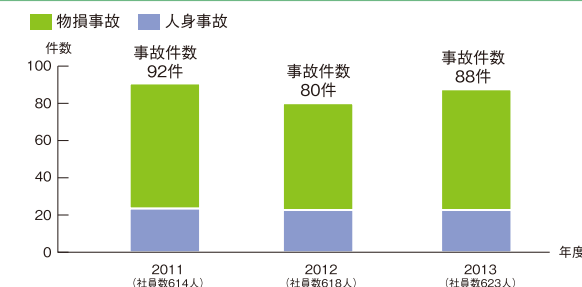
また危険予知については、社員同士が声掛けを行なっています。これにより、廃棄物取り扱い時の事故のほか、場内を行き交うトラックとの接触事故なども予防。互いに周囲の状況を知らせ合うことで、業務の安全を確保しています。

そのほか、事故報告システムを活用して他拠点の事故例を共有したり、朝礼で社員の体調管理を積極的に促すなどの取り組みも行なっています。安全管理施策は、継続することが何より大切。工場長以下、全社員が一丸となり、次は4000日を目指して取り組みを続けていきたいと思っています。



中田屋株式会社 伊勢崎工場 荒井 暁

事故数の推移



今年度の事故数は全体で88件。残念ながら昨年より8件の増加となりましたが、人身にかかわる事故の件数は昨年と同数でした。

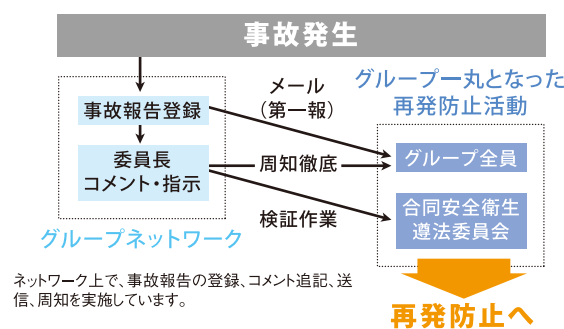
事故の再発を防ぐ「事故報告システム」

事故は未然に防ぐのが最良ですが、どうしても起こってしまう事故はあります。そうした際にも、各拠点が過去事例を互いに共有することで、再発を防止するための仕組みもグループは備えています。それが「事故報告システム」です。

これは、グループ全社が利用するシステム上に、発生した事故の日時や経緯、詳細な状況などを登録することで、全社員にメール配信することができる仕組み。登録された事故例はデータベース化されるため、古いものまでをさかのぼって確認することも可能です。

各拠点では、この情報を基に再発防止策を検討。また、合同安全衛生遵法委員会でも、特に重要と思われる事故については、具体的な予防策を発信するなどの対策を打っています。

事故報告システム



これでいつでも「安心」です

全ドライバーへ非常用持ち出し袋を配布

当社では全ドライバー約70名に対し、水やパンなどの非常食をはじめ、防寒シートやラジオ付懐中電灯など災害時に必要なものをまとめた非常持ち出し袋を配布しました。

というのも、昨冬は各地で大雪被害が多発し、道路では通行止めが発生。寒い車の中にドライバーが何日も取り残されるというニュースが相次いだからです。

さいわい、当社のドライバーは被害を免れましたが、こうした万一の事態に備えることで、ドライバーの安全・安心の確保に努めています。今後も、社員が安心して働ける就業環境の整備に取り組んでいきます。



イツモ (株)
佐久間 貴志

みんなの「便利」を追求します

スマートフォン導入で社員により働きやすい環境を提供

今年度、システム室ではスマートフォンの全社導入に取り組みました。昨年12月、主にグループ内の営業担当者向けに83台を配布。また今年3月には、グループウェアをスマートフォンからも利用できるように環境を整備しました。

この結果、従来、外出中は手帳などで行っていたスケジュール管理をスマートフォン1台で見られるようになったほか、出張中でも決裁が必要な書類の承認が行なえるようになっています。今後も、社員の皆さんの意見を聞きながら、さらに便利な仕組みをつくってまいります。



スズクホールディングス (株)
システム室 森 健一

「生涯現役」で工場の安定稼働を守る

今年の4月から「再雇用制度」を利用して、加須工場内の重機や建屋の保全業務に従事しています。この仕事の「ミソ」は、機械いじりだけが得意でもダメなところ。なぜなら、自分だけでは修理できないこともあるからです。

そこで重要なのが、協力会社との信頼関係です。「平賀さんのためなら」と、何かあった時に飛んできてくれる人がいる——。そんな関係があるからこそ、毎日の仕事はうまくいくし、私自身も楽しく、長く働き続けられているのだと思います。

加須工場には私以外にも6人の先輩が再雇用制度を利用して働いています。そうした先輩方に負けないよう、「生涯現役」で働いていきたいです。



中田屋 (株) 加須工場
平賀 宏男

体力と健康維持に努めています

研修会を通じて社会人としての基礎を学ぶ

異業種から転職し、現在2年目。入社以来、数多く参加させてもらっているのが、さまざまな研修会や勉強会です。基本的な知識や技術を習得するためのものが多く、リサイクル業界未経験の僕も安心して、業務に従事することができます。

そんななか、2013年11月に参加させてもらったのが、NGP日本自動車リサイクル事業協同組合が主催する基礎研修会です。内容は、挨拶やお辞儀の作法にはじまり、接客時の声の出し方など、社会人としての基礎を学ぶもの。業務内・外で役立つ知識をたくさん得ることができました。

今後は、こうした研修会や勉強会に頼るだけでなく、自ら勉強を重ねることで、よりお客様の役に立てよう頑張っていきたいですね。



メタルリサイクル (株)
千葉パーツセンター
井澤 啓貴

挨拶・お辞儀は
人の基本！

「まずやってみる」が私の信条！

“第一期生”として女性総合職転換制度を利用

当社では、2014年3月から女性の活躍を促進するため「女性総合職転換制度」を設けています。私は、制度を利用した第一期生の1人として、一般職から総合職へと職制を転換しました。

仕事内容としては、お客様や協力企業をはじめとする社外の方とのやり取りが多く、私自身の振る舞いが会社の振る舞いとして映るということを、これまで以上に意識して仕事に取り組むようになりました。また現在は、さらなる業務のレベルアップを目指し、毎日が勉強と試行錯誤の連続です。大変な面も少なくありませんが、その分やりがいはいくぶん楽しく働いています。自分の可能性を広げるチャンスとして、ぜひ多くの方にチャレンジしてもらいたいですね。



(株) 鈴徳 浦和営業所
折原 久美子

365days 現場の声

ここまで紹介した以外にも、グループ各職場環境や制度の整備など、さまざまでは、今年度1年間の取り組みを、

社・各拠点では、社員の能力・技術が最大限発揮されるよう、さまざまな取り組みを進めています。現場社員の声を通じてご紹介します。

2回目の育児休暇を取得後、職場へ復帰

今年の6月、育児休暇から1年半ぶりに職場復帰を果たしました。

実は、育児休暇の取得は今回で2回目。出産後、「すぐに復帰を」と思ったものの、なかなか保育所が決まらず、会社と相談して育児休暇を半年間延長。なんとか希望の保育所へ入所を果たして、1年半ぶりに復職することができました。長くお休みをもらったにもかかわらず、お客様や職場のみんなが「おかえり」と迎えてくれて、とてもうれしかったです。出産や育児で仕事を諦めることなく、勤め続けることができるのは、こうした制度に加え、周りの理解と協力のおかげだと思っています。

ママパワー全開で頑張ります！



中田屋 (株) 相模原工場
横溝 亜希

リサイクルの輪を広げます

地域住民に向けた勉強会で講師を務める

今年度、当事業所では、千葉県茂原市からの依頼を受け、小型家電リサイクルに関する勉強会を実施。私は講師を務めました。

勉強会は、近隣に住む町内会や自治会役員の方、約20名を対象に小型家電リサイクルの意義や目的を理解いただくもの。日頃の仕事を通じて蓄積してきた知識を、住民の皆様へわかりやすくお伝えすることで、少しでもリサイクルの浸透につながれば、と役目を務めました。今後も、こうした地道な活動を通して、リサイクル活動促進に貢献できれば、私にとってもうれしい限りです。



フェニックスメタル (株)
市原事業所
長尾 直樹

小型家電リサイクル事業の窓口役を務める

昨年8月、スズクグループは新たに小型家電リサイクル事業を開始しました。私は、その対外的な窓口となる部門で、取り組みを成功させるためのさまざまな業務を担当しています。

この小型家電リサイクルは、当社にとってはもちろん、回収活動を行なう自治体にとっても新しい取り組み。そのため自治体も、どうやって住民に周知すべきか、悩んでいる場合が少なくありません。そこで当社は、ただ処理を受け付けるだけでなく、事前に実施効果を検証したり、エコバッグなどのPRツールを作ったりすることで、自治体のお手伝いも積極的に実施。新しいチャレンジに、大きなやりがいを感じています。



悩んだら私を頼ってください！

スズクホールディングス (株)
小型家電リサイクル推進室
廣瀬 有美

TOPICS
2014

スズクグループの「イマ」が分かる

THE SUZUTOKU TIMES

HEADLINE

グローバル展開へ大きな一歩 タイに合併会社を設立



2014年10月の操業開始を目指す現地工場。39,352㎡の敷地内に、1200馬力のシュレッダー、スクラッププレス、天井クレーンなどの設備を備えています。



イベントでは1人10株のマングローブを植樹。豊かな森を育てるため、今後も定期的の実施していきます。

2014年7月、グループは、タイで金属リサイクル事業を手掛ける日高ホールディングスとの合併会社「HIDAKA SUZUTOKU (Thailand) Co., LTD.」を設立。代表取締役社長に、中田光一 スズクホールディングス取締役が就任しました。

幅広い廃棄物処理事業を展開してきた当グループと、長年タイで事業を営み、地の利を持つ日高ホールディングスが組むことで、互いの強みを生かした高品質な廃棄物再資源化サービスを実現。現地企業の事業活動

で発生する環境負荷の低減、および資源の有効活用に貢献し、ASEAN地域の一層の経済成長を支援していく狙いです。

またHIDAKA SUZUTOKU (Thailand) は、国内のグループ企業同様、環境保全活動にも積極的に取り組んでいます。2014年には、日海洋行エンタープライズが毎年行なっている、バンコク南東の沿岸地域でのマングローブ植林活動に参加しました。

今回の会社設立を足掛かりとして、グループはグローバル展開も積極的に進めていきます。今後の取り組みにご期待ください。

今年度導入の新設備

グループでは新設備や、定期的な設備更新にも積極的に投資しています。今年度も複数拠点で設備を導入しました。その一例を紹介します。

振動ふるい機(混合廃棄物選別設備)／(株)鈴徳 船橋営業所

ギロチンシャーで鉄スクラップを切断加工する際は、残土(ギロチンダスト)が3%程度発生します。その残土の中には細かい非鉄の破片が混入してしまうため、ふるい機を新規導入。残土をふるいにかけることで、従来は廃棄物となっていた非鉄の回収が可能となりました。



冷蔵庫樹脂選別ライン／フェニックスメタル(株)

従来、冷蔵庫は庫内トレイなどを取り外したあと、シュレッダー処理され、内壁などの樹脂はダストとして集塵されていました。今回、選別ラインを新設したことにより、樹脂の回収、再資源化が可能となり、リサイクル率のさらなる向上に寄与しています。

バランスクレーン／メタルリサイクル(株)メタル事業部

バランスクレーンは、廃棄物をシュレッダーに投入するための大型設備です。同事業部は、この設備を18年ぶりに入れ替え。性能向上、および設置位置の微調整による処理効率化を実現したほか、機器のメンテナンス費用も抑制できる見込みです。



事業活動を行なううえで果たすべき「4つの責任」。

グループではこれを常に忘れることなく、高度循環型社会の形成に貢献していきます。

1 お客様に対する責任

すべてのお客様・お取引先様との共存共栄を第一とします。そして、可能な限り質の高いサービス・品質で皆さまのニーズにお応えします。

2 社員に対する責任

社員を個人として尊重し、その能力・技術が最大限発揮できるよう、公正で風通しがよい組織、また安全で働きやすい職場環境をつくります。

3 社会に対する責任

常に社会の一員であることを自覚し、法令並びに社会ルールを順守して地域との共生を図ります。また環境配慮に努め、資源リサイクル事業を進めます。

4 株主に対する責任

バランスのとれた健全かつ安定した経営を続け、適正な利潤の確保と事業の発展に努め、株主に対して適正な配当を行います。

企業行動憲章 (一社)日本経済団体連合会 ————— 社会の信頼と共感を得るために

企業は、公正な競争を通じて付加価値を創出し、雇用を生み出すなど経済社会の発展を担うとともに、広く社会にとって有用な存在でなければならない。そのため企業は、次の10原則に基づき、国の内外において、人権を尊重し、関係法令、国際ルールおよびその精神を遵守しつつ、持続可能な社会の創造に向けて、高い倫理観をもって社会的責任を果たしていく。

1. 社会的に有用で安全な商品・サービスを開発、提供し、消費者・顧客の満足と信頼を獲得する。
2. 公正、透明、自由な競争ならびに適正な取引を行う。また、政治、行政との健全かつ正常な関係を保つ。
3. 株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示する。また、個人情報・顧客情報ははじめとする各種情報の保護・管理を徹底する。
4. 従業員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、安全で働きやすい環境を確保し、ゆとりと豊かさを実現する。
5. 環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存在と活動に必須の要件として、主体的に行動する。
6. 「良き企業市民」として、積極的に社会貢献活動を行う。
7. 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは断固として対決し、関係遮断を徹底する。
8. 事業活動のグローバル化に対応し、各国・地域の法律の遵守、人権を含む各種の国際規範の尊重はもとより、文化や慣習、ステークホルダーの関心に配慮した経営を行い、当該国・地域の経済社会の発展に貢献する。
9. 経営トップは、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、社内ならびにグループ企業にその徹底を図るとともに、取引先にも促す。また、社内外の声を常時把握し、実効ある社内体制を確立する。
10. 本憲章に反するような事態が発生したときには、経営トップ自らが問題解決にあたる姿勢を内外に明らかにし、原因究明、再発防止に努める。また、社会への迅速かつ的確な情報の公開と説明責任を遂行し、権限と責任を明確にした上、自らを含めて厳正な処分を行う。

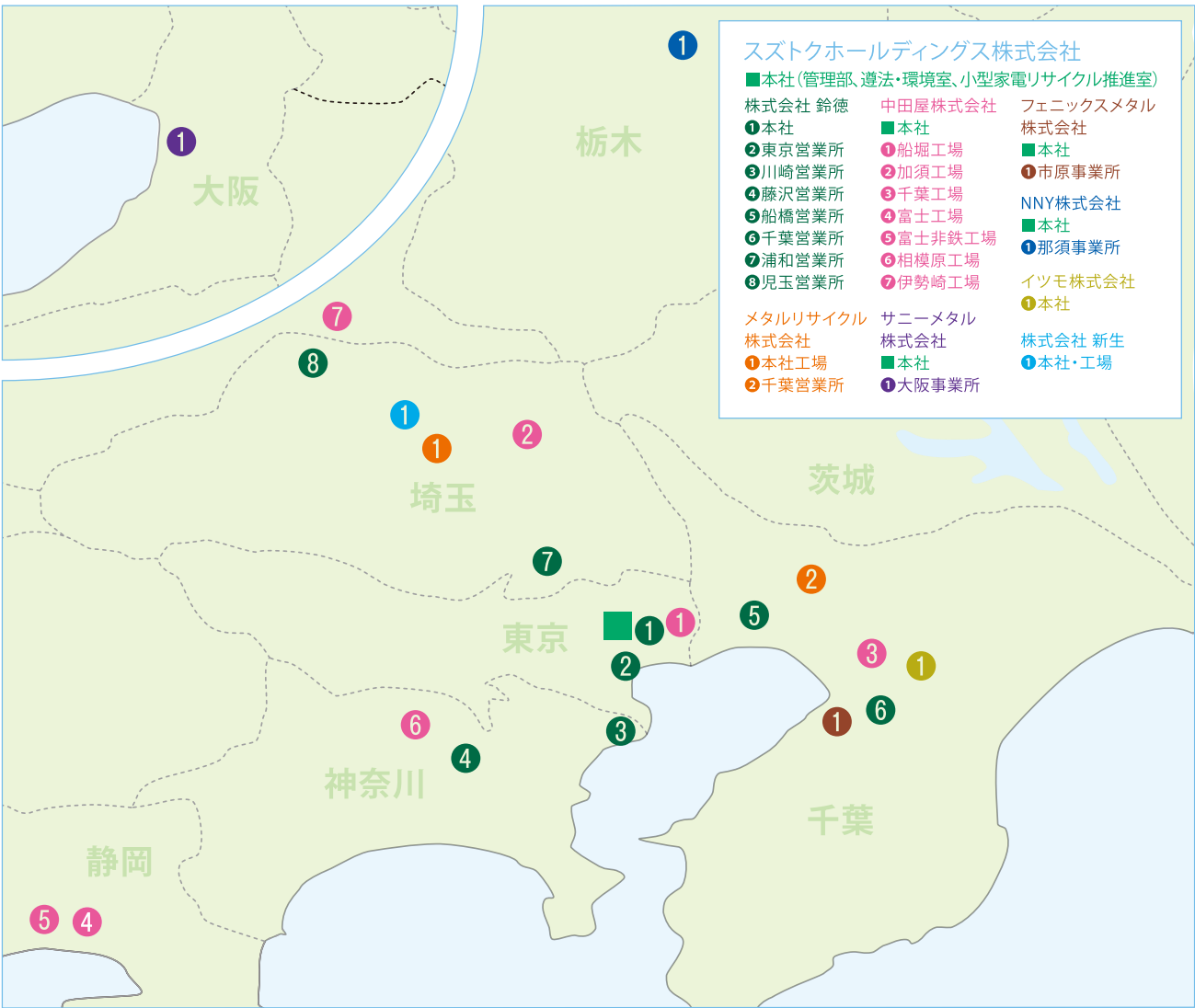
2010年7月より、スズクホールディングス(株)は日本経済団体連合会に加盟。当グループは、企業行動憲章の理念を順守し、循環型社会の一翼を担ってまいります。



スズクグループ概要・会社紹介

スズクホールディングス、および事業会社8社が、それぞれの強みを生かしたリサイクルサービスを提供。企業間連携も柔軟に行ないながら、多様なお客様ニーズにお応えします。

グループ拠点一覧



スズクホールディングス株式会社

事業会社8社を統括する持株会社。管理部、システム室、遵法・環境室、小型家電リサイクル推進室が設置されており、グループの事業統括、システム管理、コンプライアンスなどを担います。また、小型家電リサイクルの認定事業者として、グループへの処理委託も行なっています。

- 設立 2007年7月
- 資本金 1億円
- 売上高 6億8,500万円 (2014年6月期)
- 社員数 20名
- 所在地 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-7-2 東京サンケイビル15F (本社:管理部、遵法・環境室、小型家電リサイクル推進室) 〒130-0021 東京都墨田区緑1-4-19 (システム室)
- 連絡先 TEL:03-5204-1890 (本社代表) 03-5625-2710 (システム室) E-Mail:holdings@suzutoku.co.jp

主な財務関連データ (グループ全体)

売上高*1 536億4,700万円

経常利益*1 6億6,300万円

従業員数*2 623人

*1 グループ事業会社8社の直近決算数値を単純合算したもの (経常利益はスズクホールディングス株式会社を含むグループ全9社)

*2 2014年6月30日現在、経営層を含み、派遣・請負作業の従事者は除く

株式会社 鈴徳

鉄を中心とする金属のリサイクル業を主としながら、一部、産業廃棄物処理も行なっています。創業110年の歴史と実績を基に、東京および近郊全7カ所の工場で事業を展開しています。

- 設立 1935年2月 (創業1904年2月)
- 資本金 1,000万円
- 売上高 177億4,400万円 (2014年2月期)
- 社員数 131名
- 本店所在地 〒130-0021 東京都墨田区緑1-4-19
- 管理本部 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-7-2 東京サンケイビル15F
- TEL 03-3510-2361

取扱品目	
金属スクラップ	407,426 t
産業廃棄物	11,730 t
廃自動車	2,377 t
廃自販機	550 t
.....	
.....	

メタルリサイクル株式会社

金属のリサイクル、産業廃棄物処理に加え、使用済み自動車の引き取りから破砕までの一貫処理が可能。廃自動車から回収した中古パーツは一般のお客様向けに販売も行なっています。

- 設立 1999年11月
- 資本金 9,000万円
- 売上高 57億5,900万円 (2014年2月期)
- 社員数 95名
- 本社 〒350-0166 埼玉県比企郡川島町戸守440
- TEL 049-297-2111

取扱品目	
金属スクラップ	72,296 t
産業廃棄物	4,915 t
廃自動車	36,477 t
廃自販機	1,072 t
.....	
.....	

中田屋株式会社

関東および静岡県の7拠点で、鉄・非鉄のリサイクル、産業廃棄物、廃自動車、廃自販機の処理、家電リサイクルなどを幅広く展開。そのほか、全国での廃棄物処理ネットワークを構築しています。

- 設立 1951年1月
- 資本金 1億円
- 売上高 165億2,200万円 (2013年10月期)
- 社員数 175名
- 本社 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-7-2 東京サンケイビル15F
- TEL 03-5204-1886

取扱品目	
金属スクラップ	307,297 t
産業廃棄物	17,000 t
廃自動車	39,173 t
廃自販機	381 t
廃家電	12,384 t
古紙	1,856 t
.....	
.....	

サニーメタル株式会社

グループ唯一の関西拠点。主に産業廃棄物、資源ごみなどのリサイクルを行なうほか、家電リサイクルも実施しています。また、地域で唯一のシュレッダーを持つ事業所でもあります。

- 設立 1986年6月
- 資本金 1億円
- 売上高 19億9,500万円 (2014年3月期)
- 社員数 38名
- 本 社 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-7-2 東京サンケイビル15F
- 事業所 〒554-0052 大阪府大阪市此花区常吉1-1-13
- TEL 06-6461-2818

取扱品目	
金属スクラップ	9,684 t
産業廃棄物	4,440 t
廃自動車	16,055 t
廃自販機	2,179 t
廃家電	6,294 t
.....	
.....	

フェニックスメタル株式会社

グループ随一の敷地面積を誇る事業所により、大量の品物の処理が可能。鉄・非鉄、産業廃棄物から家電まで、多彩な品目のリサイクル処理を行なっています。

- 設立 1987年12月
- 資本金 1億円
- 売上高 83億7,200万円 (2014年3月期)
- 社員数 41名
- 本 社 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-7-2 東京サンケイビル15F
- 事業所 〒290-0067 千葉県市原市八幡海岸通7-3
- TEL 0436-43-1261

取扱品目	
金属スクラップ	99,103 t
産業廃棄物	5,246 t
廃自動車	102,239 t
廃自販機	5,771 t
廃家電	24,184 t
.....	
.....	

NNY株式会社

重液選別機によるミックスメタルの高精度な選別回収を行ない、グループのリサイクル率向上に貢献しています。そのほか、家電や廃プラスチックのリサイクルなども行なっています。

- 設立 1989年10月
- 資本金 5,000万円
- 売上高 16億2,300万円 (2013年8月期)
- 社員数 30名
- 本 社 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-7-2 東京サンケイビル15F
- 事業所 〒324-0036 栃木県大田原市下石上1505-11
- TEL 0287-29-2777

取扱品目	
金属スクラップ	1,614 t
ミックスメタル	27,107 t
産業廃棄物	750 t
廃自動車	38 t
廃家電	6,167 t
.....	
.....	

*取扱品目:2013年7月1日~2014年6月30日、保有輸送用車両:2014年6月30日現在

イツモ株式会社

グループの運送部門を担当。計98台の車両により、1都1府24県での産業廃棄物収集運搬業を展開しています。また、一般貨物自動車運送事業、第一種利用運送事業の許可も取得しています。

- 設立 1961年5月
- 資本金 5,000万円
- 売上高 12億7,000万円(2014年3月期)
- 社員数 74名
- 本社 〒263-0004 千葉県千葉市稲毛区六方町210
- TEL 043-423-3415

保有輸送用車両	
4トン車	3台
8トン車	15台
トラクタ	22台
セミトレーラー	23台
12～15トンドンプ	18台
10～15トントラック	17台
(計98台)	

株式会社 新生

関東を中心に1都8県で廃棄物収集運搬業を展開。そのほか、機密文書をはじめとする古紙の処理、木材のチップ化など、グループでも他に類を見ない品目の処理を行なっています。

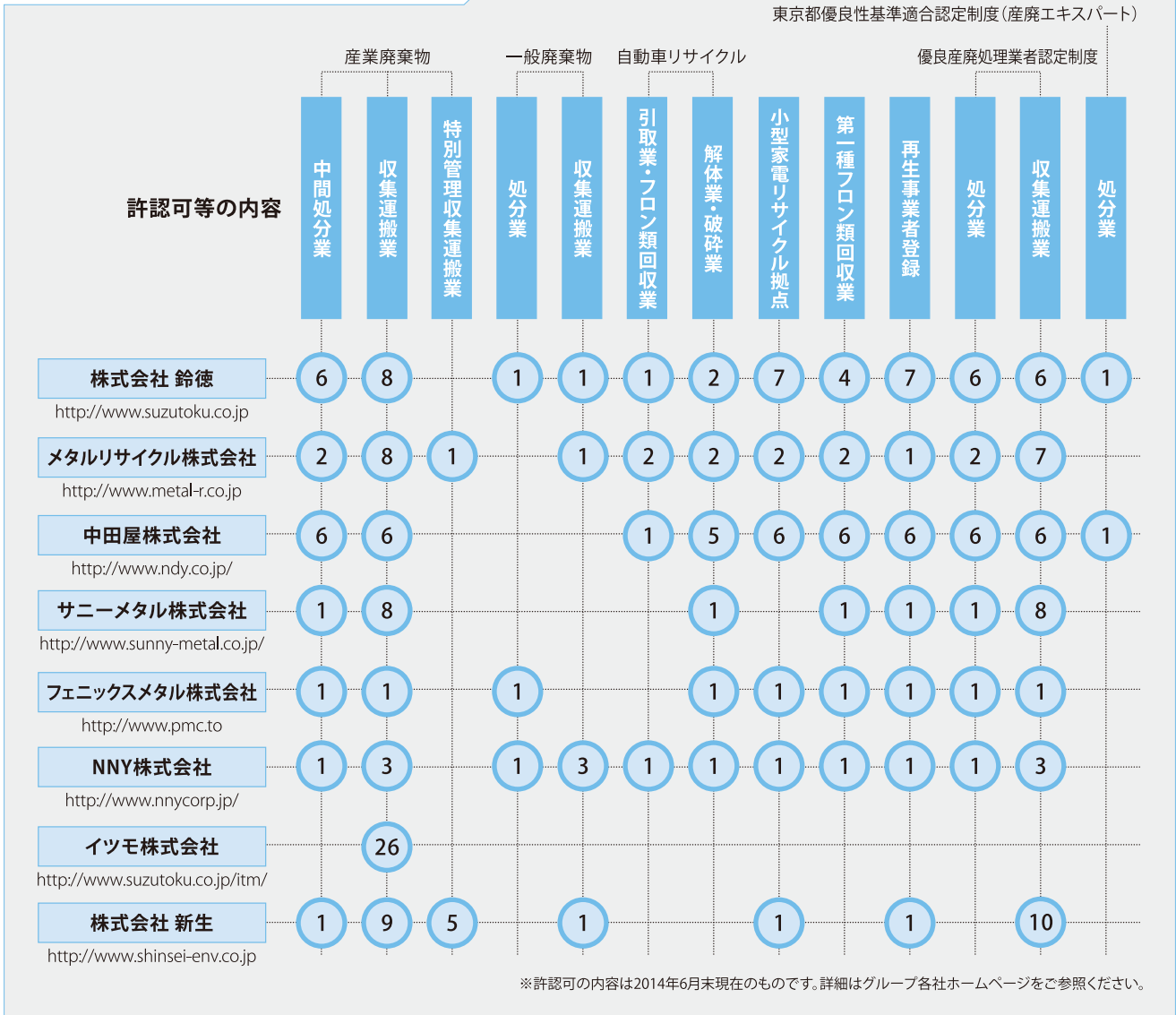
- 設立 1993年10月
- 資本金 7,500万円
- 売上高 3億6,000万円(2013年8月期)
- 社員数 19名
- 本社 〒355-0812 埼玉県比企郡滑川町都25-21
- TEL 0493-57-2170

取扱品目	
金属スクラップ	1,554 t
産業廃棄物	3,533 t
古紙	737 t

保有輸送用車両	
2トン車	3台
4トン車	11台
10トン車	1台
(計15台)	

※取扱品目：2013年7月1日～2014年6月30日、保有輸送用車両：2014年6月30日現在

許認可・登録の概要(取得自治体数)



法令遵守や事故防止の仕組みを世界に広げるよう希望します。

スズトクグループ環境社会報告書には、2009年版以来、第三者意見を述べさせていただいています。今年度は、「持続可能な社会をつくる」「社会に信頼され、地域に貢献する」「社員が誇れる会社になる」という3つの願いに沿って、グループの取り組みを紹介しています。コラムを多用し、現場の声や取り組みが具体的に伝わってくる内容になっていると感じました。

産業廃棄物の収集運搬・処理に関する業界においては、不法投棄をはじめとする不適切な事例が発生し、それに対応して厳しい法規制が設けられるようになってきた経緯があります。この点、スズトクグループでは、遵守・環境室を中心として、コンプライアンスを確実にする「遵守監査」の仕組みを運営しています。2013年度の「遵守監査」においては、56件の指摘を行なったことが報告されています。一見、指摘件数が多いように見えますが、有効に機能している証しだと考えます。

また、この業界は、さまざまな性状の廃棄物を取り扱うことから、従業員の安全の確保が課題と言えます。スズトクグループは「事故報告システム」を導入し、事故事例のデータを蓄積するとともに、グループ全社で共有できるようにし、事故の再発防止と予防を図る仕組みを運用しています。2013年度は、残念ながら物損事故が8件増加してしまいましたが、そのことを教訓として未然防止に努めていただければ幸いです。

トップコミットメントでも触れられているように、新展開として、タイにおける合弁会社の設立が挙げられています。ぜひ、スズトクグループの「遵守監査」や「事故報告システム」のような仕組みを合弁会社においても導入し、世界水準の法令遵守や事故防止の仕組みをタイに輸出していただければと思います。

グループ全体の原単位目標の設定をお勧めします。

環境面では、2012年度に引き続き、2013年度も前年比でエネルギー使用量が増加しています。2012年度は、電力消費量と軽油・灯油・ガソリン消費量ともに、資源受け入れ量の増加分以上に伸びていましたが、2013年度は、電力消費量は9.3%増と資源受け入れ量の増加(7.3%)以上に伸びた一方、軽油・灯油・ガソリン消費量は3.0%増にとどまりました。資源受け入れ量当たりのエネルギー消費量のように、原単位での目標設定を行なうことによって、問題の所在を明確につかむことができます。各社の個別目標の達成状況の把握に加えて、原単位指標を活用しつつ、グループ全体での目標設定を進めることをお勧めします。

千葉大学大学院 人文社会科学部研究科 教授
倉阪 秀史氏



1964年三重県生まれ。87年東京大学経済学部経済学科卒業。同年、環境庁入庁。環境基本法、環境影響評価法などの立案に従事。98年千葉大学法経学部助教授、2008年より同教授、2011年より現職。専門は、環境政策論、環境経済論。主著に『環境政策論【第2版】』(信山社)、『環境を守るほど経済は発展する』(朝日選書)、『環境と経済を再考する』(ナカニシヤ出版)、『政策・合意形成入門』(勁草書房)など。

編集方針

本報告書は、グループ各社の持株会社スズトクホールディングス(株)の設立(2007年7月2日)後、7回目の環境社会報告書となります。スズトクグループの企業理念である「4つの責任」に則り、環境、社会全般にわたる取り組みを包括的に記載しております。グループをご理解いただくための一助となるよう、今後もさらに報告内容の充実を図ってまいります。

■報告対象範囲

スズトクホールディングス(株)とグループ会社8社を報告対象としています(P24～26参照)。

■対象期間

2013年7月から2014年6月 ※これ以外の期間に集計した数値などは、その旨を該当ページ内に明記しました。

■次回発行予定

2015年9月を予定しています。

■本冊子に関するお問い合わせ

スズトクホールディングス株式会社 <http://www.suzutoku.co.jp/ho/> ※ご意見・ご感想については、メールアドレス holdings@suzutoku.co.jp までお寄せください。

